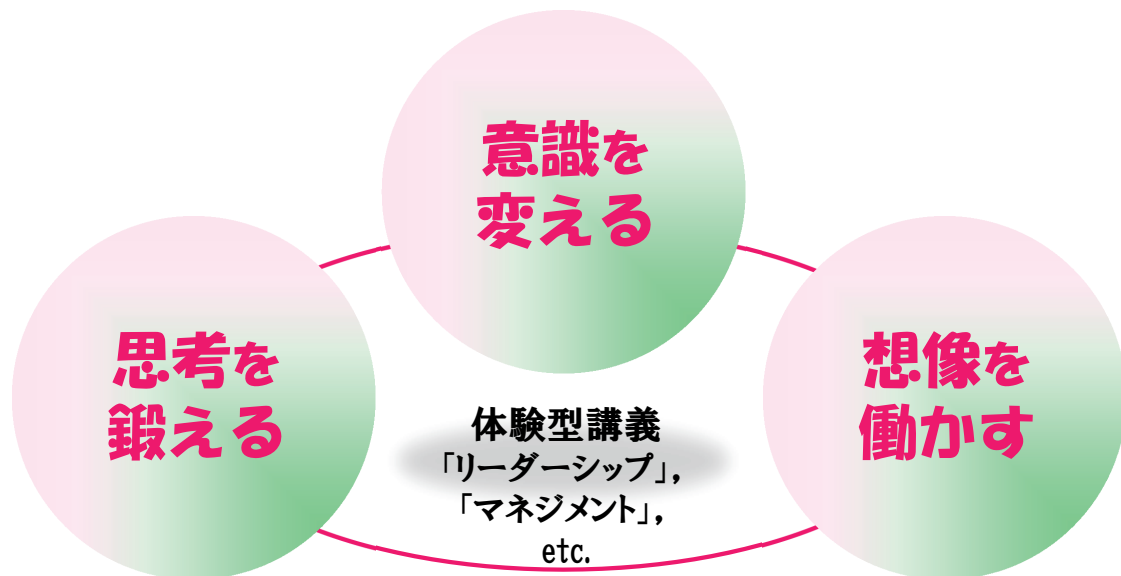


平成27年度前期 名古屋大学大学院共通科目 授業案内

Nagoya University Graduate School Common Courses
Course Information
Spring Semester, 2015



Relationships & Comm.,
Academic Writing,
Presentation, etc.



藝術リテラシー
etc.

名古屋大学教養教育院

Institute of Liberal Arts and Sciences
Nagoya University

平成27年度前期 授業科目一覧 Spring Semester Schedule 2015

授業科目 Course Title	単位数 Credit	教員 Instructor	曜限 Day・Hour	講義室 Class Room	ページ Page
体験型講義「リーダーシップ」	2	栗本	集中	Ace Lab S	3
体験型講義「チーム・ビルディング」	2	栗本 他	集中	Ace Lab S	4
Relationships and Communication (Seminar) I	1	Go Yoshida	月2限 Mon. 2	A12	5
Relationships and Communication (Seminar) II	1				
芸術リテラシー（絵画論Ⅰ）	2	山本	火2限	A21	6
芸術リテラシー（音楽Ⅰ）	2	小林（聡）	火5限	国言棟4階 ビデオスタジオ	7
芸術リテラシー （レクチャーコンサートⅠ）	2	丹下・深堀	金4限	国言棟4階 ビデオスタジオ	8
大学教員論	2	夏目・中島	集中		9
研究のビジュアルデザイン	2	田中・遠藤・ 茂登山	集中		10

Mei-Writing

Academic Writing I (A)	English	2	Paul W. L. Lai	火3限 Tue. 3	C36	11
Academic Writing I (B)		2	Chad Nilep	水4限 Wed. 4	C10	12
Academic Writing I (C)	German	2	Markus Rude	金4限 Fri. 4	C30	13
Academic Writing I (D)	French	2	Nicolas Baumert	月4限 Mon. 4	A32	14
Academic Writing I (E)	Chinese	2	Jian Lu	月4限 Mon. 4	A33	15
Presentation I (A)	English	2	Mark Weeks	水3限 Wed. 3	A14	16
Presentation I (B)		2	David Toohey	月2限 Mon. 2	Call 4	17
Academic writing and research integrity	English	2	Lai・Todayama	集中 Intensive		18

申請方法 How to Apply

①電子メール による申請 Send e-mail

• I 「体験型講義」「Relationships and Communication」「藝術リテラシー」「大学教員論」「研究のビジュアルデザイン」

• II Academic Writing I (A)

受講希望クラス, 学生番号, 氏名, 所属研究科・専攻, 連絡先(電話番号, メールアドレス), 受講理由を明記して4月16日(木)17時までに電子メールで申請

表 題: 講義科目名

送信先: I の科目 kyo-kika@adm.nagoya-u.ac.jp

II の科目 meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp

Send an e-mail by 17:00, April 16th, 2015 (Thu), providing the following information: 1) course title, 2) your ID number, 3) your name 4) your department, major, 5) your contact information (phone number, e-mail address), 6) an explanation of why you want to take this course.

Subject: Course Title

E-mail address: I Workshop, Relationships and Communication, Arts of Literacy, Preparing Future Faculty, Visual Design for Researchers

→ kyo-kika@adm.nagoya-u.ac.jp

II Academic Writing I (A)

→ meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp

• III 「Academic Writing I (B)(C)(D)(E)」「Presentation」「Academic writing and research integrity」に関しては、電子メールによる事前申請はなしとする。

Academic Writing I (B)(C)(D)(E), Presentation, and "Academic writing and research integrity" don't require preregistration by e-mail.

②第1回目 授業に出席 First Lesson

• 受講を希望する人は、第1回目の授業(前期授業:4月10日(金)~)に必ず出席してください。但し、受講調整を行うこともあります。その方法については、第1回目の授業で説明します。

If you wish to take any one of the courses, please come to the first lesson (4/10-) of the course that you wish to take. However, please note that space is limited. Students will be informed whether or not they are accepted to take the course in the first lesson. Details will be announced at the first lesson.

③各研究科で 履修登録 Registration

• 受講を許可された人は、各研究科教務担当掛で履修登録をしてください。(登録の締切日は所属研究科担当掛に確認して下さい。)受講許可された人で、受講を取りやめる場合は必ず担当教員に連絡して下さい。

Students who are accepted are required to register for the course at the administration office of their respective graduate school.

Since the registration deadline varies from school to school, students are advised to check the deadline of their own graduate school.

Those who are accepted but decide not to take the course, please contact the course instructor as soon as possible.

■詳細につきましては、下記 URL でご覧ください。

For the detailed information, please go to the following website.

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/gradschoolsubject/>

<http://meiwriting.ilas.nagoya-u.ac.jp/>

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2015年度	前期・集中	-	-
科目名 (Course Title) 体験型講義「リーダーシップ」			
担当教員 (Instructor) 栗本 英和			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) 体験型講義1「リーダーシップ」と体験型講義2「マネジメント」をセットで受講することを勧めます。			
目的と目標 (Course Objective) 体験型講義の目的は、研究分野の枠組を超えて求められる、リーダーシップ、マネジメント、チーム・ビルディング等に関する基本概念を、体験を通して会得すると同時に、事例分析や比較分析を通して、その基本知識を体系的に学修することです。大学院での教養教育は、仲間や同僚を牽引する中核的な資質・能力を養います。リーダー教育ともよばれ、社会から求められています。 研究開発におけるリーダは未来を拓く牽引者として、学術だけでなく、産業、行政、医療、教育の機関のほか非営利団体など業種や業態を超えて求められている。しかしながら、そのリーダ像と行動様式（リーダーシップ）は、必ずしも明確でないため、勘と経験と度胸と呼ばれる実践型訓練が現場で行われています。 本講義では、真の勇気と知性を備えた牽引者像の具現化を図り、現実解を創出する資質・能力を醸成するため、社会人として通用するリーダの基本素養を培います。			
内容と計画 (Course Content) 1-1 リーダシップの概念を共有します。 ○リーダーシップがもつ概念を言語空間で可視化し、概念を類型化・構造化します。 ○作成した概念図を、相手に伝わるように伝える、効果的な表現手法を学びます。 ○協働作業を通して、世界に通用する日本型リーダ像を共有します。 ○組織活動を主題にしたドラマの登場人物から、多様なリーダーシップ像をつかみます。 1-2 リーダシップの身体感覚をつかみます。 ○抽象的な概念を、動画制作のプロセスを通して、「伝わる」ように「伝える」ための知性と感性を鍛えます。 ○異分野のチームメンバーによる概念の形成、物語の作成、素材の収集、動画の編集、作品の発表、コンセプトの創出等において、リーダーシップの実践感覚を学びます。 ○制作作品の発表会、専門職業人による講評、制作工程のアセスメントを行います。 1-3 各界の著名なトップリーダ※を招き、対話を通して真のリーダ像を探ります。 ○研究、行政、産業等、各界のトップから、次世代リーダの必要要件を深掘りします。 例えば、グローバル企業のCEO、国際的に通用する研究者リーダ、行政の長等 1-4 本講義で得た学修成果を共有します。 ※大講義室で実施し受講生以外も聴講可能としますが、質疑は受講生のみ限定します。			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) 課題制作を通じた想像力・構想力・対話力・評価力(60%)、講義への参画や姿勢(40%)			
教科書、参考書、参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) 講義のなかで示します。			
連絡先 (Contact Address) 教養教育推進室 栗本英和 kuri(at-mark)info.human.nagoya-u.ac.jp at-mark を@ にしてください。			
連絡事項 (Notes) 体験型講義は、社会人からのニーズを実際に調査し、社会から真に求められる資質・能力を醸成する教育プログラムとして、担当講師、受講生、修了生が協働して開発を進めています。 想像力を醸成し、考想と協調を促進する場である「エース・ラボS」で実施するため、収容数に限りがあります。 「伝わるように伝える力」を鍛えるワークショップは、大手総合広告代理店の専門職業人と協働で実施します。 ※7月中旬から8月上旬の水曜日午後に開講を予定しています。 ※アドバンスコースとして、体験型講義3「チーム・ビルディング」で総合力を培い、体験型講義4「エンプロイアビリティ」で博士後期に繋がる実践力を身につけます。			

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2015年度	前期・集中	-	-
科目名 (Course Title) 体験型講義「チーム・ビルディング」			
担当教員 (Instructor) 栗本 英和, 小松雅宏, 松原 緑			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) 基礎段階として, 体験型講義 1 「リーダーシップ」, 体験型講義 2 「マネジメント」 実践段階として, 体験型講義 4 「エンプロイアビリティ」			
目的と目標 (Course Objective) 体験型講義の目的は, 研究分野の枠組を超えて求められる, リーダシップ, マネジメント, チーム・ビルディング等に関する基本概念を, 体験を通して会得すると同時に, 事例分析や比較分析を通して, その基本知識を体系的に学修することです。大学院での教養教育は, 仲間や同僚を牽引する中核的な資質・能力を養います。リーダー教育ともよばれ, 社会から求められています。 実践力や協働性を身につける方法として, On the Job Training があります。しかしながら, 現実には費用の問題があり失敗が許されない, 時間的制約から学ぶ時間が十分になり, 状況に応じた適切な指導者がいないなど, その限界も指摘されています。 本講義では, 文系学生と理系学生が1つの目標に向かい, 創意工夫, 試行錯誤, 協働作業を通して, 問題の原因追求, 解決するための目標や計画の策定, 費用と性能と開発費の配分, 問題を未然防止するための方策, 仮説と検証, 根拠に基づいた思考, 継続的な改善などを学び, 「わかる」人から「できる」人になるための動機づけを図ります。 また, 異分野チームをどのように形成してゆくのか, 価値観や文化が異なるチーム・ビルディングを擬似体験する。こうした体験から, 専門的知識の長所・短所に気づき, その活かし方から, 現実課題に取り組む, 実践的なチームサイエンスを学びます。			
内容と計画 (Course Content) 3-1 文系理系が協働して耐久性のある構造物を製作する目的, 意義, 価値を共有します。 3-2 構造物を製作するための予備知識や基礎知識を確認します。 チーム・ビルディングにおけるルールと手順を理解します。 3-3 構造物を製作するための調査, 第1次設計, 目標設定と計画書を作成します。 不具合予測やリスクマネジメントによる設計レビュー終了後, 実際に製作します。 3-4 第1回のアセスメント評価と成功事例を共有します。 3-5 原因分析と改善目標を設定し, 第2次設計, 計画書を作成します。 不具合予測やリスクマネジメントによる設計レビュー終了後, 実際に製作します。 3-6 第2回のアセスメント評価と振り返り資料を作成します。 3-7 概念化して, 策を考え, 実践し, 結果を得る一連の経験と内省から, 耐久性の解析力や設計力, 合意形成力を培う。また, 知識獲得だけでは実践できない気づきから, 文系と理系が協働して行う開発現場での様々な事象や仕事の進め方を学習します。			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) 課題解決のための分析力・洞察力・対話力・評価力 (60%), 講義への参画や姿勢 (40%)			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) 講義のなかで示します。			
連絡先 (Contact Address) 教養教育推進室 栗本英和 (情報文化学部, 環境学研究科を兼務) kuri (at-mark) info.human.nagoya-u.ac.jp at-mark を@ にしてください。			
連絡事項 (Notes) 体験型講義は, 社会人からのニーズを実際に調査し, 社会から真に求められる資質・能力を醸成する教育プログラムとして, 担当講師, 受講生, 修了生が協働して開発を進めています。 ワークショップは民間企業で実際に行われている研修プログラムに相当する内容を, 大学院版に内製化した形で実施します。 ※9月の第3週目に1回, 第4週目の木曜日・金曜日に集中実施を予定しています。 ※アドバンスコースとして, 体験型講義 3 「チーム・ビルディング」では総合力を, 体験型講義 4 「エンプロイアビリティ」では後期課程で求められる実践力を培います。			

年度(西暦) (Year) 2015年度	開講期 (Term) 前期	曜日 (Day) 月	時限 (Period) 2
科目名 (Course Title) 担当教員 (Instructor)	Relationships and Communication I , II Go YOSHIDA		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
This class, taught in English, is also open to select undergraduate students. Contact the professor if you are interested.			
目的と目標 (Course Objective)			
Desired Learning Outcomes			
1. Having a basic understanding of who we are as human beings			
2. Having better self-awareness and responsibility			
3. Ability to better express yourself and manage relationships			
4. Having a basic framework for conflict management			
5. Developing a basic understanding of marriage			
Topics Covered			
· Who We Are			
· Relationship Management 1: Boundaries			
· Relationship Management 2: Control and Responsibility			
· Change			
· Communication and Assertiveness			
· Forgiveness			
· Selecting a Partner / Marriage			
内容と計画 (Course Content)			
Course Description			
Healthy relationships are not those with an absence of problems, but rather, those that confront (not avoid) and solve problems as they arise. We can solve relational problems by first recognizing and accepting our involvement, and second, to set boundaries through assertive communication. It starts and ends by controlling what we can, within a structure of accountability where there are both freedom and responsibility. Ultimately, the relationships we have are a result of our choices and actions and what we have allowed to happen. In this class, students will gain a basic understanding of who we are, and develop practical skills—in particular, conflict management skills—to manage relationships effectively.			
My classes go beyond the ‘academics’ and are designed to develop life skills (いきる力)—skills needed in life regardless of major, profession, or aspiration—by stimulating both mind and heart. This takes shape in the form of a three-way approach to teaching—through class time, assignments, and individual meetings. Through these classes, engaged students will be better prepared for life after university, through the transformation of the mind.			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
· Assignments 25%			
· Mini Tests 25%			
· Final Project 50%			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
1. Arbinger Institute, The Anatomy of Peace: Resolving the Heart of Conflict (Berrett-Koehler; May 2008).			
2. Maxwell, John C., The Difference Maker: Making Your Attitude Your Greatest Asset (Thomas Nelson; August 2006).			
3. Note book.			
連絡先 (Contact Address)			
go.yoshida@d.mbox.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes)			

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2015年度	前期	火	2
科目名 (Course Title) 藝術リテラシー(絵画表現と造形手法Ⅰ) 担当教員 (Instructor) 山本 富章			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) 本授業は、理論ではなく、実技を中心としたもので、美術に関心がある方ならずべてOK。			
目的と目標 (Course Objective) 「美しいものが成立するということはどのようなことなのか?」という問いを掲げ、自らの制作者としての経験に基づきながら、絵画を含む美術を生み出す(制作する)行為の中に存在する様々な要素を考察しつつ、美しいものが成立するということはどのようなことなのかを明らかにし美術表現に対する理解を高めようとするものである。			
内容と計画 (Course Content) 美術作品は単純に生み出されただけでは成立しない。制作するという行為のほかに、作品が成立する場、さらにそれを観る者が必要である。 たとえば、油彩による絵画を最終的な表層が作り出したもの(イメージ)だけで判断するのではなく、キャンヴァス、膠、地塗り、絵の具層などの素材に着目し、積層構造としてとらえることが必要である。 油彩実技に踏み込むことまではしないが、フロッタージュ、コラージュなどもっとも単純な技法などから「絵画」を生み出す行為の実際・実践に触れながら、自らの手を通した触知的行為から現れてくるものを考えることとしたい。 さらに、美術が生まれる場としての空間、展示会場に並んだ作品を通して、鑑賞する(見る)ということを様々な角度から改めて問いかけたい。 実習を繰り返すことから感じるもの、見えるものなど、感覚を通してとらえたものを、それぞれの個に還元しながら表現に対する理解を高めたい。			
(1)前期一回の鑑賞に関するレポートを課題に定めるかたちで提出。 (2)実習(自分の気に入った課題二課題を提出)。 (1)(2)の総合で評価する。6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) なし			
連絡先 (Contact Address)			
連絡事項 (Notes) 授業に必要な画材は初回において説明するが、スケッチブック、描画材(絵具・鉛筆)などを使用する。			

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2015年度	前期	火	5
科目名 (Course Title) 藝術リテラシー(音楽Ⅰ)			
担当教員 (Instructor) 小林 聡			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) 基本的な楽譜の読み方(義務教育レベル)がわかること。和音(コード)など西洋音楽の骨格となる簡単な理論を理解しているとなおよい。			
目的と目標 (Course Objective) 本授業では、中世・ルネサンスの音楽から現代音楽や現代のポップ・ミュージックまでを時代順に概観しながら、各時代の音楽作品の特徴と代表的な作曲家のスタイルを研究する。音楽作品を聴きその特徴を感覚的に把握し、楽譜を見て作品の音組織や構成も理解するための能力を養う。			
内容と計画 (Course Content) 第1回 導入として、楽典の知識の確認と、授業計画の説明を行う。 第2回 ルネサンスの音楽を鑑賞し、教会旋法を学び、対位法の基礎となる全音符単旋律の作曲を試みる。 第3～4回 J.S.バッハの作品を中心にバロック時代の音楽を鑑賞し、当時の楽器(チェンバロ、クラヴィコード、オルガン等)の特徴や楽器編成について学ぶ。また当時の音楽形式や器乐的対位法にも触れる。 第5回 モーツァルトの作品を鑑賞し、ギャラント・スタイルについて学ぶ。 第6回 ベートーヴェンの作品を鑑賞し、ソナタ形式について学ぶ。 第7回 主要三和音に基づくメロディーの作曲を行う。 第8回 第7回で書いたメロディーを基に伴奏付けを試み、変奏曲やソナタに発展させる可能性を考える。 第9回 ショパンの作品を鑑賞し、ショパンの作品の特徴を考える。 第10回 フランス印象派の作品を鑑賞し、和声の特徴を考える。 第11回 12音技法で書かれた作品を聴き、実際に12音の音列を書いてみる。 第12回 1960年代以降のヨーロッパの音楽作品を鑑賞する。 第13回 現代の日本人作曲家の作品を鑑賞する。 第14回 小室哲哉の作品を鑑賞し、作曲学的に分析する。 第15回 まとめとしてルネサンスから現代までの音楽の変遷を確認する。			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) 出席、授業中に試作する楽曲、提出レポートを総合的に評価する。 6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。			
教科書、参考書、参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) 教科書 特になし。必要に応じてプリントを配布する。 参考書 対位法 長谷川良夫著 音楽之友社 楽式論 石桁真礼生著 音楽之友社 総合和声 実技・分析・原理 島岡譲著 音楽之友社 Stylistic Harmony Work Book Anna Butterworth著 Oxford University Press Inventing Finnish Music Kimmo Korhonen Finnish Music Information Centre			
連絡先 (Contact Address)			
連絡事項 (Notes) 音楽作品を鑑賞するさいには、実際のコンサートで聴いているつもりでのぞんでください。また、授業中に実際に音符を書く課題もあるため、五線紙も用意してください。 この授業ではルネサンス時代から現代に至る様々な音楽を聴き、その構成について考え、また実際に音楽を書いて行きたいと思えます。			

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2015年度	前期	金	4
科目名 (Course Title) 藝術リテラシー(レクチャーコンサートⅠ)			
担当教員 (Instructor) 丹下聡子、深堀彩香			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) 音楽的な能力・経験等は問わないが、音楽を単に聴いて楽しむだけでなく、学問的にも理解することへの意欲が求められる。			
目的と目標 (Course Objective) 愛知県立芸術大学博士課程の学生および修了生である、現役の演奏家が講師を務める。授業では、講師による演奏を交えながら、クラシック音楽を通史的に学び、時代や作曲家による音楽作品の違いを感じ取る。			
内容と計画 (Course Content) 「フルート音楽史」(担当 丹下) 「キリスト教音楽史」(担当 深堀) 講師プロフィール…丹下聡子(同大学院音楽研究科博士後期課程修了、フルート) 深堀彩香(同大学院音楽研究科博士後期課程3年、音楽学) なお、この授業は、愛知県立芸術大学と名古屋大学の大学間連携によって、井上さつき(愛知県立芸術大学音楽学部教授)と藤井たぎる(名古屋大学国際言語文化研究科教授)の監修のもとに開講されます。 「フルート音楽史(全8回)」(担当 丹下) 毎回、フルートの実演を交えて講義する。 1. バロック時代～19世紀 ・フルートの歴史を楽器の変遷と、フルート作品との関連を中心に学ぶ。 2. 20世紀以降 ・フルートの特殊奏法や記譜法など、実際に楽譜を見ながら理解を深める。 「キリスト教音楽史(全7回)」(担当 深堀) 1. 西洋音楽の発展に大きな影響を与えたキリスト教音楽の変遷を、音源や映像、当時の楽譜等を使用しながら、時代を追って学ぶ。 ・中世・ルネサンスの教会音楽 ・バロックの教会音楽 ・古典派以後の教会音楽 2. 授業では主に、単旋律聖歌、記譜法、ミサ曲、コラール、器楽作品等について学ぶ。適宜、ゲストを迎えて実演し、理解を深める。			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) 学期末にレポートを課す。毎回の授業のコメントカードと、平常点で総合的に評価する。 6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。			
教科書、参考書、参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) 教科書 授業内でプリントを配布する。 参考書 久保田慶一ほか『はじめての音楽史——古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』音楽之友社、2009年。 『西洋の音楽と社会』シリーズ、全12巻、音楽之友社、1996-1997年。 ナンシー・トフ『現代フルートのあゆみ・フルートは いま』みつとみとしろう訳、音楽之友社、1985年。 前田りり子『フルートの肖像—その歴史の変遷』東京書籍、2006年。 井形ちづる、吉村恒訳著『宗教音楽対訳集成』国書刊行会、2007年。 志田英泉子編著『ラテン語宗教音楽キーワード事典』春秋社、2013年。 ハーパー、ジョン『中世キリスト教の典礼と音楽』佐々木勉・那須輝彦訳、教文館、2010年。			
連絡先 (Contact Address) satokokazmi@yahoo.co.jp (丹下)、a_piacere_af@kne.biglobe.ne.jp(深堀)			
連絡事項 (Notes) 総合大学の学生にとって、クラシック音楽を聞いたり演奏したりする機会はそれほど珍しくないと思いますが、生の演奏を耳にしながらか音楽の歴史を学ぶ、という経験は初めてではないでしょうか。この授業では、五感を使ってクラシック音楽に触れ、それが社会の中でどのように変化してきたかを学ぶことで、皆さんが音楽文化に一層の興味をもつきっかけとなれば良いと思っています。前期では、フルートのレパートリー、キリスト教の音楽を数多く紹介しながら、音楽史の大まかな流れをつかみます。			

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2015年度	前期・集中	8月上旬(3日間)	・3日とも1-5限
科目名 (Course Title)	大学教員論		
担当教員 (Instructor)	夏目達也・中島英博		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
・博士前期課程1年生以上 ・開講時までに教科書を購入のこと			
目的と目標 (Course Objective)			
この授業が終了したときに、受講者のみなさんが以下のような知識や能力を身につけることを目標にします。			
<ul style="list-style-type: none"> ・大学の成り立ちや大学教員の職務について理解する ・大学という組織で働くために必要な知識、スキルを身につける ・授業で得た知識、スキルをもとに、自身の今後の学修やキャリア設計を進めることができる ・多様な考え方や経験で培った事例を尊重し、共に教え学びあう雰囲気貢献する 			
内容と計画 (Course Content)			
第1回 大学教員という職業－自己紹介－この授業に関する説明－大学教員職の歴史 －大学教員職の特徴 教科書1章			
第2回 授業を設計する－授業のシラバス－シラバス作成法 教科書2章			
第3回 教授法の基礎－授業づくりの基本の型－学生参加型授業 教科書3章			
第4回 学習成果を評価する－教育評価の論点－評価の具体的方法 教科書4章			
第5回 マイクロ・ティーチング(模擬授業)			
第6回 国際化のなかの大学教員－国際化の現状と意味－教育の国際化への対応 －研究の国際化への対応 教科書10章			
第7回 研究のマネジメント－大学教員の研究活動の特徴 －研究プロジェクト管理の基本 教科書8章			
第8回 社会サービスに取り組む(1)－社会サービスの概史－社会サービスの類型 教科書9章			
第9回 社会サービスに取り組む(2)－社会サービスにおける現代の課題 教科書9章			
第10回 大学教員の倫理－倫理とは何か－教育・研究の倫理的実践 －大学教員の自由と責任 教科書11章			
第11回 書く力をつけさせる 教科書5章			
第12回 学生のキャリア形成を支援する(1) 教科書6章			
第13回 学生のキャリア形成を支援する(2)－就職支援からキャリア形成支援へ			
第14回 多様な高等教育機関－教育・研究条件の多様性 教科書12章			
第15回 大学教員のライフコース－生活設計 教科書13章			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
授業への参加・小課題 60% レポート(8月17日(月)締切予定) 40%			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
教科書 夏目達也、近田政博、中井俊樹、齋藤芳子(2010)『大学教員準備講座』玉川大学出版部(2400円)			
雑誌 『文部科学白書』(文部科学省、年刊)『IDE現代の高等教育』(IDE大学協会、年10回、1954～)			
連絡先 (Contact Address)			
連絡事項 (Notes)			
レポートの書式と提出方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・参考文献はすべてリストする ・A4用紙を使用する ・すべてのページにページ番号をつける ・ホッチキスでとめて提出する ・担当教員にメールでも送る 			

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2015年度	前期・集中	8/10, 11, 19, 20	3-5, 1-4, 3-5, 1-5
科目名 (Course Title)	研究のビジュアルデザイン		
担当教員 (Instructor)	田中佐代子／筑波大学芸術系准教授 遠藤潤一／金城学院大学国際情報学部専任講師 茂登山清文／名古屋大学大学院情報科学研究科教授		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
特になし			
目的と目標 (Course Objective)			
研究の発想や支援には、視覚的な思考のもつ創造性や、全体を俯瞰する力がおおきくかかわっている。この授業の目的は、デザインについての知識を深めるとともに、科学の可視化であるサイエンス・ビジュアリゼーションと、発表資料のデザインに関する原理や手法を理解し、研究との相乗効果を高めることにある。講義と制作を通して、グラフィクスやイラスト、ポスターやスライド制作の基礎的な技術を身につけ、研究の遂行や発表に役立てることが目標である。			
内容と計画 (Course Content)			
「サイエンス・ビジュアリゼーション」(前半) 研究発表に際して用いられるデータの可視化や科学イラストレーションの原理について講義し、それらの制作を通して、図にかかわる基本的な技術を習得する。 1. 授業のオリエンテーションとデザイン概論 2. サイエンス・ビジュアリゼーションの考え方と手法 3-6. ビジュアリゼーションの制作 7. 制作物の講評とビジュアリゼーションの可能性 「研究発表資料のデザイン」(後半) 研究発表で使用されるプレゼンテーションスライドやポスターのデザイン手法について講義し、それらの制作を通して、コミュニケーション技術を習得する。 8. デザインの考え方と研究発表 9-13. 研究発表資料のデザイン 14. 制作物の講評と情報デザインの展開 15. 研究とヴィジュアルをつなぐリテラシー			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
授業への出席と議論への参加などの平常点、および提出した制作物、レポート等。			
教科書、参考書、参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
田中佐代子著『科学者のためのビジュアルデザインハンドブック』(配布) 遠藤潤一著『研究を視覚的に伝える - 学術情報デザインの基礎』名古屋大学高等教育研究センター(配布) Felice C. Frankel, Angela H. DePace 著 “Visual Strategies: A Practical Guide to Graphics for Scientists and Engineers”, Yale University Press(参考書) 遠藤潤一ほか『情報デザインバイシクス』ユニテ(参考書)			
連絡先 (Contact Address)			
茂登山清文(情報科学研究科・内線4774)			
連絡事項 (Notes)			
制作にあたっては、Macintosh コンピュータと Adobe CS を使うが、その簡単な使用方法も授業内でおこなう。制作では、既に作成または発表したグラフィクスやポスターなどをリメイクするので、それらを持参することがのぞましい。前後半の講義の間に、デザインの展览会などを見学し、レポートしてもらうことがある。			

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2015年度	前期	火	3
科目名 (Course Title) 英語(アカデミック・ライティング) I (English Academic Writing I)			
担当教員 (Instructor) 頼 偉寧 Paul W. L. Lai			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
(1)Graduate students who are able to take classes, and communicate, in English. (2)Preference will be given to those who are planning to submit abstracts to international conferences or journals.			
目的と目標 (Course Objective)			
The two-semester graduate course has been developed since 2008 based on a new teaching method that integrates the training of logical thinking skills into the training of academic writing. Its primary goal is to help graduate students, through a step-by-step training in logical thinking, develop the skills needed to write a clear and convincing academic paper for publication at a high international level. In the spring semester students will mainly learn how to develop a preliminary thesis statement (main research idea) for their respective research, and a logical argument for the thesis statement. In the autumn semester students will mainly learn how to incorporate the thesis statement and logical argument into an abstract, introduction, and learn how to develop a counterargument or advanced argument. After successfully completing the entire course, the students should be in a good position to complete and send their papers for publication. Those who succeed in having at least one English abstract accepted for publication during the course might be employed as a teaching assistant of Mei-Writing.			
内容と計画 (Course Content)			
This is a highly interactive course! You will be asked a lot of questions, and you are encouraged to ask questions or give comments at ANYTIME! There will be plenty of lectures, class works, and group works. And all these activities will be implemented based on YOUR OWN RESEARCH! In particular, the spring semester will cover the following: Lesson 1: Introduction to logical thinking and academic writing. (Lecture) Lesson 2: A narrow but useful definition of academic writing. (Lecture) Lesson 3: The role of thesis statement in academic writing. (Lecture) Lesson 4: Step by step guide on how to build a thesis statement for your research. (Class & Group work) Lesson 5: Student presentation on Thesis Statement. (Student presentation) Lesson 6: Student presentation on Thesis Statement. (Student presentation) Lesson 7: Introduction to logic, and how logic can be applied to your research. (Lecture) Lesson 8: Step by step guide on how to build a logical argument for your research – Part 1. (Class & Group work) Lesson 9: Step by step guide on how to build a logical argument for your research – Part 2. (Class & Group work) Lesson 10: Step by step guide on how to build a logical argument for your research – Part 3. (Class & Group work) Lesson 11: Introduction to common logical fallacies. (Lecture) Lesson 12: Student presentation on Logical Argument. (Student presentation) Lesson 13: Student presentation on Logical Argument. (Student presentation) Lesson 14: Student presentation on Logical Argument. (Student presentation) Lesson 15: Review, reflection, and course evaluation. (Discussion)			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
Students who need the course credits are required to meet the following conditions: (1)Attendance must be over 80%(2)Two oral presentations ((i) thesis statement, (ii) logical argument)			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
The course instructor has developed a series of course materials, including (i) step-by-step guide on how to build a thesis statement, (ii) step-by-step guide on how to build a logical argument, (iii) template on how to write a high quality abstract, (iv) template on how to write a high quality introduction, etc. All these materials are free, and will be available for download at the course web site.			
連絡先 (Contact Address)		meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp	
連絡事項 (Notes)			
(1) If you are interested in taking this course, you are required to send an email to meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp, explaining why you want to take this course. Due to the high demand of enrollment request for this course, you are advised to send the email as early as possible, preferably by April 14, 2015. (2)Whether or not you are selected to take this course, please attend the first lesson. (3)The first lesson of the course will commence on April 14, 2015.			

年度(西暦) (Year) 2015年度	開講期 (Term) 前期	曜日 (Day) 水	時限 (Period) 4
科目名 (Course Title) 英語(アカデミック・ライティング) I (English Academic Writing I)			
担当教員 (Instructor) Chad Nilep			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) The course is open to graduate students in any field. You must be able to communicate effectively in English.			
目的と目標 (Course Objective) This course introduces basic skills of academic research writing and logical thinking. Its goal is to help graduate students develop from readers into academic writers. Students will produce a preliminary abstract for a major paper—typically their graduation thesis—and deliver an oral presentation.			
内容と計画 (Course Content) The course uses group discussion among students and the instructor. For this reason, all participants must be able to communicate in spoken and written English. You should be prepared to discuss actively. This includes asking questions and sharing your ideas. There are also some course readings—typically short pieces written in English—to be read before class meetings. These are the major questions to be addressed. 1. What is academic writing? How is it different from other kinds of writing? 2. What is a research question? How are research questions answered? 3. What is a thesis statement, and how do I write one? 4. What is logical argumentation? How do I use it to support my thesis statement? 5. What is an abstract, and how do I write one? Students will write one abstract of their own current or planned research project, often a preliminary abstract for the graduation thesis. Students will deliver an oral presentation about a research project in their own field. This may be either the student's own research or a review of a previously published study.			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) Students who enroll for course credit are required to meet the following conditions: attend at least 80% of meetings; write one abstract; deliver one oral presentation. Students who wish to observe the course for no credit may request to do so.			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) A password-protected website will be introduced during the first meeting. Some materials are developed by the instructor and are free; others are copyrighted and can only be used in this course.			
連絡先 (Contact Address) 国際言語文化研究棟409号 NILEP@ILAS.NAGOYA-U.AC.JP			
連絡事項 (Notes) Enrollment is limited to 20 students.			

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2015年度	前期	金	4
科目名 (Course Title) ドイツ語(アカデミック・ライティング) I (German Academic Writing I)			
担当教員 (Instructor) Markus Rude			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
Studierende in Master- oder Dokorkursen, Wissenschaftler und Lehrende; auch fuer deutsche Muttersprachler.			
目的と目標 (Course Objective)			
Zweck des Kurses ist die Lehre Akademischen Schreibens, und zwar durch die Vermittlung von Grundprinzipien sowie durch deren Einuebung. Ausgehend von einer zentralen Forschungsfrage bzw. These und den Textsorten Abstract bzw. Zusammenfassung werden in diesem Kurs die wesentlichen Elemente Akademischen Schreibens – vom Argumentieren bis hin zum Zitieren – besprochen und geuebt. Teilnehmende werden am Ende des Kurses in der Lage sein, in Schrift und Sprache lebhaft akademisch zu kommunizieren.			
内容と計画 (Course Content)			
Die Unterrichtsform wird sowohl lehrerzentrierte Aktivitaeten als auch Gruppenaktivitaeten beinhalten.			
Vermittelte Elemente sind (unter anderen)			
<ul style="list-style-type: none"> - die klare Formulierung der zentralen Forschungsfrage oder These, - Sprachstile und Redemittel, - die Textsorten Zusammenfassung und Abstract, - Logik und Argumentation, - das Recherchieren und Exzerpieren, - das Erstellen von Mindmaps und Assoziogrammen, - das Zitieren und Referenzieren, und - Einleitung, Schluss und der rote Faden. 			
Wesentliche methodische Bestandteile sind das regelmaessige Schreiben, aber auch das gelegentliche Vortragen, denn akademische Kommunikation braucht Schriftlichkeit und Muendlichkeit.			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
Anwesenheit (mindestens 70% sind fuer einen Schein erforderlich; ergibt 30% der Kursnote), aktive Teilnahme (30%), Textprodukte & Kurzpraesentationen (40%).			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
<u>Textbuch (obligatorisch):</u>			
Buchner, Patricia: Campus Deutsch – Schreiben (B2/C1). Hueber Verlag. ISBN 978-3-19-101003-4			
<u>Empfohlene Literatur:</u>			
Ebel, Hans F. u. Claus Bliefert: Bachelor-, Master- und Doktorarbeit: Anleitungen fuer den naturwissenschaftlich-technischen Nachwuchs. Wiley-VCH. ISBN 978-3-527-32477-4			
Esselborn-Krumbiegel, Helga: Richtig wissenschaftlich schreiben. UTB. ISBN 978-3-8252-3694-6			
<u>Sonstige Materialien:</u> Per Handout oder Internet			
連絡先 (Contact Address)			
meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes)			
Der Kurs ist auf Deutsch, aber Uebungstexte und Praesentationen koennen – nach Ruecksprache – auch auf Englisch sein. Weitere Fragen werden gerne beantwortet.			

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2015年度	前期	月	4
科目名 (Course Title) フランス語(アカデミック・ライティング) I (French Academic Writing I)			
担当教員 (Instructor) Nicolas Baumert			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) S'assurer de la validité d'une inscription universitaire et avoir un projet de recherche sur lequel travailler.			
目的と目標 (Course Objective) Le but de ce cours est d'aider les étudiants à développer les bases de l'écriture académique en français. L'approche est multidisciplinaire. Il s'agit d'apprendre à rédiger un texte clair et convaincant visant à la publication d'une première contribution scientifique. A la fin du cours, les étudiants seront capables d'écrire en français au moins un résumé ou un projet de recherche.			
内容と計画 (Course Content) Le cours propose des exposés méthodologiques, des exercices et des ateliers d'écriture. Il s'organise en 3 parties. (1) Introduction aux règles de la rédaction en français et à ses principales difficultés (formulation d'une thèse ou d'une problématique, plans, ...). (2) Analyse critique de textes scientifiques (articles, comptes-rendus d'ouvrages, ...) (3) Travail de rédaction de la part des étudiants à partir de leurs propres recherches. Le choix du travail final de rédaction peut être choisi en fonction des besoins de chacun (par exemple : candidatures à des bourses, résumé en français d'un mémoire de maîtrise ou d'une thèse, résumé en français d'un article en japonais).			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) Présence et participation 40% Travail de rédaction 60%			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) 教科書 Le matériel de cours sera distribué sous forme de photocopies. 参考書 Un dictionnaire est recommandé.			
連絡先 (Contact Address) meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp, baumert@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes) Pour s'inscrire à ce cours, se référer aux instructions générales des cours d'Academic Writing (en particulier pour les dates de début des cours et les salles). Le statut d'auditeur libre est également possible sous condition.			

年度(西曆) (Year) 2015年度	開講期 (Term) 前期	曜日 (Day) 月	時限 (Period) 4
科目名 (Course Title) 中国語(アカデミック・ライティング) I (Chinese Academic Writing I)			
担当教員 (Instructor) 盧建			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) 不分国籍, 不分专业, 凡想培养汉语思维、提高汉语论文写作技巧以及发表技巧的学生均可参加。最好具有一定的用汉语发表见解以及参加讨论的能力。			
目的と目標 (Course Objective) 这门课的主要目标是培养学生中文学术论文的写作能力。我们将从学生的实际出发, 通过课程的系统训练, 逐步引导学生建立汉语思维, 并掌握汉语的语言习惯以及论文的写作技巧, 以致达到能用中文发表论文的水平。课程计划分为前、后两个阶段, 第一阶段是准备阶段, 以培养学生的“汉语感觉”为目的, 重点语言习惯的培养和思维能力的训练; 第二阶段是实践阶段, 以写作技巧为主线进行具体的指导与实践, 争取在课程结束时, 帮助学生完成一篇“名副其实”的中文小论文。			
内容と計画 (Course Content) 前期阶段: 目的是为写论文作思维与语言上的准备。主要内容包括: (1) 学术论文的基础知识储备(如: 介绍各专业学术论文的特征、论文的写作流程、文章构成、论题选择等等); (2) 通过阅读优秀论文, 介绍汉语学术论文的整体特征、格式、规范和要求; (3) 介绍汉语的思维与语言习惯, 从中、日、英对比的角度出发, 分析作为一篇学术论文, 中文篇章表现上的“约定俗成”以及语法规则和惯用表现的理据; (4) 翻译练习, 比较直接用汉语写成的论文和以翻译为中介手段而完成的中文论文二者之间的区别; (5) 同源译文的分析对比; (6) 通过母语进行逻辑思辨能力的训练; (7) 如何确定选题; (8) 如何撰写研究计划 后期阶段: 目的是以写作实践为主, 一步步引导学生完成一篇小论文的写作。主要内容包括: (1) 如何制定一个清晰、明确的中文标题; (2) 如何简明扼要地概括论文中心论点; (3) 如何建立论文的论证结构, 并冠以明确的中文表述; (4) 如何根据论题确定研究方法; (5) 如何撰写论文提要(abstract); (6) 如何撰写“前言”和“结语”; (7) 行文技巧(比如参考文献的文体、论据的筛选、“引用”的表述、汉语语料库以及资料的收集方 ※以上内容计划以学年为单位完成, 分为前期课程和后期课程, 不过具体实施上将根据学生的选修情况做时间及内容上的调整, 以期使每位学生能学以致用。			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) (1) 出席次数在总课次的2 / 3以上; (2) 课堂表现			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) 随堂布置			
連絡先 (Contact Address) lujian@ilas.nagoya-u.ac.jp lujian55578@hotmail.com			
連絡事項 (Notes) 这是一个学习的课堂, 也是大家练习学会发表以及交流的场所。课上学生们从自己的研究出发, 互相启发, 互相帮助, 创设了一个很好的研究氛围。汉语非母语的学生, 除了论文写作训练以外, 还可以提高汉语的语言表达能力; 中国留学生可以训练逻辑思辨能力以及提高论文的写作技巧。每周除了正常授课外, 还有一节个别辅导时间, 有需要的学生可以利用这个时间商谈论文或练习学会发表。有时候也会开研究发表会, 供大家学术交流。总之, 它就像一个“汉语之家”, 欢迎更多的同学加入到我们的行列中。			

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2015年度	前期	水	3
科目名 (Course Title) 英語(アカデミック・プレゼンテーション) I (English Presentation I)			
担当教員 (Instructor) Mark Weeks			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
<p>1. Graduate students, researchers who are able to take classes and communicate functionally in English are eligible.</p> <p>2. In the case of over-enrolment, students will be accepted on a “first come, first served” basis.</p>			
目的と目標 (Course Objective)			
<p>The central aims of this course are to help students/researchers in any field to</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. acquire skills in drafting logical, clear and persuasively effective academic presentations 2. develop confidence and competence in delivering presentations in English 3. practice discussion and informal conversation for academic contexts 			
内容と計画 (Course Content)			
<p>Classes are conducted in an informal atmosphere, with students discussing issues and working together in pairs or small groups, changing partners each week. Most lessons include a short interactive lecture by the instructor on one of the themes listed below, with related group or class discussions and exercises. The following is a tentative outline of issues discussed.</p> <ul style="list-style-type: none"> * Introduction: the functions and pleasures of presentations * Finding your controlling idea and significance * Understanding and communicating with audiences * Logically structuring a presentation * Using logical support and evidence effectively * Language for structural clarity and audience engagement * Delivery: voice, body language, interaction with slides * Effective slide design principles, techniques * Question time language and strategies * Techniques for reducing nervousness <p>Students will be encouraged to deliver two presentations, at least one with slides, during the semester in order to gain experience and receive helpful detailed feedback for further improvement.</p>			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
<p>Two presentations 30% Participation 70%</p> <p>* Students are required to attend a minimum of 10 lessons in order to receive credits for the course.</p>			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
<p>All materials are prepared and provided by the instructor. Electronic copies of key materials will be sent to students throughout the course.</p> <p>While some materials are original products of the instructor, the following sources are also used:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Adrian Wallwork, English for Presentations at International Conferences, New York: Springer, 2010. 2. Michael Alley, The Craft of Scientific Presentations, New York: Springer, 2003. 3. Garr Reynolds, Presentation Zen Design, Berkeley (CA): New Riders, 2010. <p>参考書</p> <p>It will be helpful to bring a dictionary for using English to class.</p>			
連絡先 (Contact Address)			
weeks@lang.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes)			
<p>Academic presentations are increasingly important in global research communities today. In an atmosphere that is relaxed but at the same time challenging, I want to show that it is possible to enjoy sharing our ideas in English. The first step is to think deeply about why we're speaking and what our main point is. The next is careful preparation based on the key principles of thematic focus, logical clarity and persuasive support. The instructor will also provide practical support and advice for participants preparing to give academic presentations outside the course.</p>			

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2015年度	前期	月	2
科目名 (Course Title) 英語(アカデミック・プレゼンテーション) I (English Presentation I)			
担当教員 (Instructor) David Toohey			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
This class is open to anyone who is interested in presenting projects that they are working on at academic conferences and can communicate at an academic level in spoken and written English. You may be from any academic discipline, though it is required that you have projects to present.			
目的と目標 (Course Objective)			
This course is designed to improve students academic presentation skills. It incorporates students presentations of academic projects that they have already started and plan to present in other classes. These presentations are designed for students to use logical thinking skills to prioritize what information to present, how to present it, and how to answer audience questions. During these presentations, non-presenting students will be asked to evaluate the presenters. This achieves two goals: 1) for the presenters to get feedback from a variety of points of views; and 2) for students to consider which presentation styles they enjoy and what effective things they can incorporate into their own presentations.			
内容と計画 (Course Content)			
This course uses lectures on logical presentation strategy which students incorporating into their own presentations. We will also watch videos of real-life academic presentations. Presentations and class participation (evaluation, questions, etc.) are emphasized. Through multiple presentations you will gain confidence and experience necessary to present at International conferences.			
Lesson 1: Course overview and video examples of academic presentations Lesson 2: Non-verbal skills (hand gesture, tone of voice, body language). Lesson 3: Effectively using graphs for handouts Lesson 4: How much information to include in handouts Lesson 5: When to use handouts and when not to use handouts Lesson 6: Student Presentations (Assignment #1) Lesson 7: Templates for PowerPoint presentations (What to include, what grammar to use) Lesson 8: What to avoid with PowerPoint presentations Lesson 9: Student Presentations (Assignment #2) Lesson 10: Using volume of voice and pauses to persuasively communicate content Lesson 11: Using facial expression and body language to persuasively communicate content Lesson 12: Using audio and visual materials to reinforce arguments and evidence Lesson 13: Short audio and visual presentations (assignment #3) Lesson 14: Effectively answering questions, what to expect and the logic of what and when to answer. Lesson 15: Mock question and answer sessions about student presentations			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
Class attendance participation 60% Assignment # 1 (Presentation with Handouts) 15%; Assignment #2 (PowerPoint Presentation) 15% Assignment # 3 (Short Audio and Visual Presentations) 10%.			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
All reading materials are prepared by David (the teacher) and given to students in the class. It is required that students bring an appropriate number of handouts to class when they present. Students should bring English dictionaries to all classes.			
連絡先 (Contact Address)			
toohey@ilas.nagaoya-u.ac.jp		Office: 国際言語文化研究棟407号	
連絡事項 (Notes)			
You need to attend at least 10 classes to pass this class. Also, be prepared to accept constructive criticism of your presentations; this is very important for being prepared to attend conferences and publishing. It is important that you give honest, constructive feedback to other students, even if they are from another academic disciplines that you are not familiar with.			

年度(西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2015年度	集中	-	-
科目名 (Course Title) アカデミックライティングと研究の倫理 (Academic writing and research integrity)			
担当教員 (Instructor) Paul W. L. Lai, Kazuhisa Todayama			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
(1) Students who are able to take classes, and communicate, in English. (2) Preference will be given to graduate students.			
目的と目標 (Course Objective)			
<p>“Academic Writing and Research Integrity” is the official name of Mei-Writing summer camp. Since 2011, the camp has been held every summer at a beautiful and relaxed campsite in the mountain areas of Nagano prefecture. Its primary goal is to transform higher education outside the classroom setting so that a more suitable learning environment can be created to foster a better development of a student’s self-confidence in research, communication and leadership. All the camp activities will be conducted under a teamwork environment. Each student will have to work with other 3 or 4 team members throughout the 5-day camp to compete with other teams for a top prize. They will learn how to make their research ideas clear and convincing in academic writing, understand the importance of upholding ethical standards and practices in the conduct of research. Under the competitive environment, students will naturally become more active and creative in learning. Hopefully this experience will pave a solid foundation for one to be a competent researcher with the highest level of integrity.</p>			
内容と計画 (Course Content)			
<p>The summer camp has been widely praised as the best outdoor learning experience in the university life. It is the perfect combination of learning and enjoyment. The 5-day camp will cover the following sessions:</p> <p>Session 1: Introduction to the course. (To be carried out at a date prior to departure)</p> <p>Session 2: Camp orientation. (Day 1)</p> <p>Session 3: Workshop on academic writing and logical thinking. (Day 1)</p> <p>Session 4: Student teamwork – 1. (Day 1)</p> <p>Session 5: Student teamwork – 2. (Day 1)</p> <p>Session 6: Workshop on thesis statement. (Day 2)</p> <p>Session 7: Student teamwork – 3. (Day 2)</p> <p>Session 8: Student teamwork – 4. (Day 2)</p> <p>Session 9: Workshop on logical argumentation. (Day 3)</p> <p>Session 10: Student teamwork – 5. (Day 3)</p> <p>Session 11: Student teamwork – 6. (Day 3)</p> <p>Session 12: Workshop on research ethics. (Day 4)</p> <p>Session 13: Student teamwork – 7. (Day 4)</p> <p>Session 14: Final presentation (Day 4)</p> <p>Session 15: Review and reflections (Day 5)</p>			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
<p>Students who need the course credits are required to meet the following conditions: Teamworks (50%) and Final Presentation (50%)</p>			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
<p>The course instructor has developed a series of course materials, including (i) step-by-step guide on how to build a thesis statement, (ii) step-by-step guide on how to build a logical argument, etc. All these materials will be provided for free at the camp.</p>			
連絡先 (Contact Address)		meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp	
連絡事項 (Notes)			
<p>(1) Camp period: 2 – 6, September 2015</p> <p>(2) If you are interested in taking this course, you are required to send an email to meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp., and fill an application form. Due to the high demand for this course, you are advised to send the email as early as possible.</p> <p>(3) A payment (about 19,000 yen) is needed to cover all 5-day expenses: accommodation, meals, drinks, insurance, etc.</p> <p>(4) For further information about the camp (including photos and videos of the past camps), please visit the website: http://meiwriting.ilas.nagoya-u.ac.jp/activities/summer-camp</p>			

リーディング大学院のコースワークに入っているもの

平成 27 年 4 月 1 日現在

プログラム名	PhD プロ フェッショナル 登龍門	フロンティア 宇宙開拓 リーダー 養成	グリーン 自然科学 国際教育 研究	「ウエルビー ング in ア ジア」実現 のための 女性リー ダー育成	実世界 データ 循環学 リーダー 人材養成	法制度設 計・国際 的制度移 植専門家 の養成プ ログラム
体験型講義「リーダーシップ」	○	○	○	○	○	
体験型講義「チーム・ビルディング」	○	○	○	○	○	
体験型講義「マネジメント」	○	○	○		○	
体験型講義「エンployアビリティ」	○	○	○		○	
Relationships and Communication I (Seminar)	○	○	○	○		○
Relationships and Communication II (Seminar)	○	○	○	○		○
Personal Transformation	○	○	○	○		○
藝術リテラシー(絵画論Ⅰ)		○				
藝術リテラシー(絵画論Ⅱ)		○				
藝術リテラシー(音楽Ⅰ)		○				
藝術リテラシー(音楽Ⅱ)		○				
藝術リテラシー (レクチャーコンサートⅠ)		○				
藝術リテラシー (レクチャーコンサートⅡ)		○				
大学教員論			○			
研究のビジュアルデザイン			○		○	
英語(アカデミック・ライティング)Ⅰ			○	○	○	
英語(アカデミック・ライティング)Ⅱ			○	○	○	
ドイツ語(アカデミック・ライティング)Ⅰ						
ドイツ語(アカデミック・ライティング)Ⅱ						
フランス語(アカデミック・ライティング)Ⅰ						
フランス語(アカデミック・ライティング)Ⅱ						
中国語(アカデミック・ライティング)Ⅰ						
中国語(アカデミック・ライティング)Ⅱ						
英語(アカデミック・プレゼンテーション)Ⅰ			○	○	○	
英語(アカデミック・プレゼンテーション)Ⅱ			○	○	○	
アカデミックライティングと研究の倫理	○	○	○	○		○

大学院共通科目とは

教養教育院では、平成 23 年度より「国際社会に通用する語学力を養成し、社会変化に対応し得る高度で知的な能力及び素養を備える人材の育成を図る」ことを目的として大学院共通科目を開講しており、平成 27 年度においても、本冊子のとおり開講いたします。

大学院共通科目は、「博士課程教育リーディングプログラム」*に対応した特色のある講義内容となっており、多くの大学院生に受講していただきたいと考えております。

なお、修得した単位がどのように扱われるかは、各研究科の教務担当掛で確認してください。

*「博士課程教育リーディングプログラム」

「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進することを目的としています。

名古屋大学教養教育院 教養教育推進室
TEL:052-789-4723 FAX:052-789-3527